荒川区・武蔵野市・日野市他行政視察報告

平成２６年２月

市 民 民 主 ク ラ ブ

提出日　平成 26 年 2 月 21 日

議長　中島　清晴　様

はじめに

市民民主クラブでは平成２６年２月６日から２月８日にかけて東京都荒川区、同武蔵野市、同日野市、印刷博物館の行政視察を行いました。ここに報告書をまとめて提出いたします。

視察日程　　平成２６年２月６日（木）～２月８日（土）

視 察 先　　東京都荒川区
東京都武蔵野市
東京都日野市
印刷博物館（東京都文京区）

会　　派　　市民民主クラブ

参加議員　　田中　力、中島清晴、松田俊助、永作邦夫、川口　保

報告者提出　　幹事長　松田俊助

東京都荒川区の行政視察

視 察 日　平成２６年２月６日（木）

視察事項　　幸福実感都市あらかわについて

対　　応	荒川区長	西川太一郎　氏
	荒川区議会議長	志村　博司　氏
	公益財団法人荒川区自治総合研究所	
	副所長兼事務局長	長田　七美　氏
	荒川区議会事務局　事務局長	濱島　明光　氏

荒川区役所

〒116-8501　東京都荒川区荒川 2-2-3

TEL 03-3802-4736（議会事務局）

公益財団法人荒川区自治総合研究所

〒116-0002　東京都荒川区荒川 2-11-1

TEL 03-3802-4861（議会事務局）

１．荒川区の現況

荒川区は東京都の北東部に位置し、区の地域は東西に長く、西南部の山手台地の一部を除き、大部分は起伏の少ない平坦地となっている。区の北東部を迂回するように流れる隅田川は昭和３９年までは「荒川」と呼ばれ、このことが区名に採用された。

近年社会経済環境の激しい変化により、各種事業所が減少する一方、大型開発事業等により、新しい賑わいが生まれるなどの変化が起きている。

昭和の初め頃には、紙芝居屋や駄菓子屋、またもんじゃを焼いて食べるところもあり、下町情緒あふれる町であった。現在も古くからの歴史や、下町情緒を残しつつ、新しさと懐かしさのある新しい街づくりが進められている。

区の面積は１０．２Ｋ㎡と狭く、人口は約２０７，０００人。

２．「荒川区民総幸福度」の取り組みまでの経緯

荒川区が「荒川区民総幸福度（ＧＡＨ)」を取り組むことのきっかけとなったのは、平成１６年１１月に西川太一郎氏が区長になった時に始まる。西川区長は就任と同時に「区政は区民を幸せにするシステムである」という区のドメイン（事業領域）を全国の自治体ではじめて設定した。

その後の様々な施策の取り組みの中で西川区長は、ある雑誌でブータン国が提唱する「国民総幸福度（ＧＮＨ)」にめぐり会い、平成１７年から「荒川区民総幸福度（ＧＡＨ）指標」のためのプロジェクトチームを結成し、職員をブータンに派遣した。

平成２３年（２０１１）１１月に、アルプスの小さな国ブータン王国から、若きジグミ・ケサル・ナムゲル・ワンチュク国王夫妻が来日した。このときブータンが提唱する、国民の精神面の豊かさを示す、「国民総幸福量（ＧＮＨ)」という指標が紹介され、日本人はあらためて、幸せとは何かを考えさせられた。そして決して豊かでないブータンの国民の多くが、「幸せ」を感じているということを初めて知った。

荒川区ではこの国王の来日より６年も早くから、この取り組みを始めていることになる。

３．ブータンの国民総幸福量（ＧＮＨ）

ブータン王国は南アジアのインドと中国の間にある人口７０万の親日の国である。世界で唯一チベット仏教を国教とする国でもある。

ブータンの国内総生産（ＧＤＰ）は１４億ドル（２０１１年）で、日本では人口５万人規模の市町の経済規模であり、国民１人当たりのＧＤＰは 2121 ドルと世界平均より大幅に低い。国際連合の基準では後発開発途上国（最貧国）に分類される。

このブータンで１９７２年に第４代のジグミ・シンゲ・ワンチュク国王が提唱した、国民総幸福量ＧＮＨ（Gross National Happiness）が、これまでＧＤＰ（国民総生産）やＧＮＰ（国内総生産）を主眼としてきた先進国から注目されている。

ＧＮＨは１、心理的幸福、２、健康、３、教育、４、文化、５、環境、６、コミュニティー、７、良い統治、８、生活水準、９、自分の時間の使い方の９つの要素から構成されている。

４．荒川区民総幸福度（ＧＡＨ）の取り組み

これまで、その国が豊かでどうかは、主に経済的に豊かであるかどうかで計られてきた。しかし経済的に豊かであっても、人々は幸せと感じられず、本当の豊かな国と言えなかった。このため荒川区では２０年先を見越した幸せを実感できる指標をつくり、区民の幸福実感の向上を目指すことになった。

平成１７年１１月のプロジェクトチームを結成に続き、平成１９年３月に「幸福実感都市あらかわ」を掲げた基本構想と基本計画を策定、平成２１年１０月には「荒川区自治総合研究所」を設立した。この研究所では哲学者、心理学者、経済学者、宗教学者などをメンバーとする荒川区民総幸福度（ＧＡＨ）研究プロジェクトが開始された。

平成２３年８月に第一次中間報告書が公表され、平成２４年８月に第二次中間報告書が公表された。最終報告書は平成２６年度に公表される。

５．荒川区民総幸福度の内容

荒川区が目指す幸福のイメージとして「自分自身の幸福」「身近な人の幸福」「地域の幸福」の３つがあると考えている。そしてこの幸福が合わさって荒川区民の幸福が形づくられるとしている。

第二次中間報告書から荒川区民総幸福度（ＧＡＨ）の内容では、①健康・福祉、②子育て・教育、③産業、④環境、⑤文化、⑥安全・安心６つの指標からなっている。

平成２３年度の荒川区政世論調査では生活に対する満足度を４６の項目で５段階の評価に分類して聞いた。この結果から満足度は７０～７５％（高いものは８０％）という回答が寄せられた。そしてこれまで行政があまり目をつけなかった４０代の若者に注目し、回答結果を課題とした。また満足しているという数字より、満足していない数字に注目をして、幸せを増やすより不幸をなくすることに力を入れるということである。

６）幸せリーグの設立

物質的な豊かさや経済性だけの効率性だけを追い求めるだけでなく、真に住民本意

の行政の実現や、幸福実感に基づいた施策の展開が必要であるという問題意識に基づき、基礎自治体が協力しながら学びあい、切磋琢磨していくための組織「住民の幸福実感向上を目指す基礎自治体連合『幸せリーグ』」が設立された。

これは荒川区の西川区長、つくば市の市原健一市長、京丹後市の中山泰市長が発起人となり全国の自治体に呼びかけたもので、５２の自治体（現在は５５）が参加して平成２５年６月に設立された。このリーグには三重県からは松阪市、亀山市が加入している。

３、所　見

私たち日本国民はブータンという国名は聞いていても、その実情はわからない人も多かったのではないかと思う。その国が身近に感じられたのは、ジグミ・ケサル・ナムゲル・ワンチュク国王夫妻が来日であろう。ブータンは大変な親日の国で、東日本大震災が発生した時、多くの国民が日本国民のために、被災者のために祈りを捧げたということである。また来日したワンチュク国王も被災地を訪れ、日本の国会で演説したあと、祈りを捧げたということです。

国王の来日により、ブータン国が提唱する国民総幸福度（ＧＮＨ）という指標を私たち日本人が知ることになった。ブータンの国は我が国よりも、また世界の中でも貧しい国に分類されるが、しかし国民は９７％（2012 年調査）幸せ感を感じているということである。

これまでの日本は国内総生産（ＧＤＰ）や国民総生産（ＧＮＰ）を高め、経済成長こそが国民の幸せの尺度であるという考え方で国づくりが進められてきたが、これだけ多くの国民が幸せ感を感じているということはないだろう。

荒川区の西川太一郎区長が雑誌でブータンの国民総幸福量（ＧＮＨ）の存在を知ったのは、国王来日の６年前の出来事である。それは偶然であろうが、区長に就任以来、「区民を幸せに」という行政運営の取り組みがなされてきたからこそ、その記事が目に止まったのだろう。そして西川区長のこの取り組みは「幸せリーグ」というかたちで、松阪市を始め全国の多くの自治体の賛同を得ている。

人それぞれ幸せの種類も違うし尺度も異なるが、「住民を幸せに」という取り組みは全国全ての自治体で行われているはずである。では荒川区のＧＡＨや幸せリーグの「幸せ」と一般の自治体の「幸せ」の違いは何かと言うことになる。その大きな違いは「心の豊かさ」を求めていくことにあろう。それはブータンのＧＮＨでも同じことである。

健康とか、環境とか、教育とか、そして経済的な豊かさにプラスして、心の豊かさ

がなければ、この取り組みの意義はないと言える。この心の豊かさに大きな役割を果たすのが「文化」への取り組みであろう。国情や自治体の状況は異なるが、ブータンの９つの指標にも、荒川区の６つの指標にも「文化」が入っている。しかし先に発表された松阪市の基本構想（案）では「市民みんなで幸せを実感できるまち」というメインテーマで６つの単位政策が発表されたが、その中に文化は入っていない。文化は「子育て・教育」の中の１つの項目として上げられているにすぎない。これはその自治体の文化への取り組みの重要度を示している。

全国的に改革派と言われる首長が出現して新しい施策を次々と打ち出している。しかしその施策がその自治体にどれだけ根付くか疑問である。次の首長に変わったとき、これまでの施策は消えていく場合がかなりある。
荒川区のＧＡＨの取り組みは西川区長の肝いりで策定された政策である。西川区長から次の区長に変わった時、このＧＡＨがどうなるか注目される。荒川区の場合は引き継がれるものと思うが。

私たちの視察では担当部署の職員から説明を聞く前に、議長または副議長が挨拶をされ、首長が視察の場に出られることはめったにない。荒川区の視察では西川太一郎区長が出ていただいて挨拶された。松阪市と荒川区、幸せリーグのつながりで出ていただいたのだろうか。

東京都武蔵野市の行政視察

視 察 日　平成２６年２月７日（金）
視察事項　　武蔵野プレイスの運営方針について
対　　応　　公益財団法人武蔵野生涯学習振興事業団
　　　　　　　　武蔵野プレイス事業部　部長（館長）　三澤　和宏　氏
武蔵野プレイス
　　　〒180-0023　東京都武蔵野市境南町 2-3-18
　　　　TEL 0422-30-1905

武蔵野プレイスと境南ふれあい広場公園

１．武蔵野市の現況

武蔵野市は東京都の中央部、特別区の西側に位置し、昭和２２年に東京都の３番目の市として誕生した。市の面積は１０．７３㎢と狭く、全国７８７市中７７７番目の狭さである。また人口は１３万８０００人（平成２４年９月１日現在）で、人口密度は７８７市中２位と高い。この人口も昭和４０年代から５０年間１３万人台で推移し、町全体が住宅地や商店、工場となっており、新たな開発の余地が少ない成熟した都市となっている。

市域内には中央本線の３つの駅があり、それぞれ特有の駅圏域を形成している。吉

祥寺駅周辺は都内有数の商業・文化都市となっており、近くの井の頭公園ではテレビや映画の撮影が行われる。三鷹駅周辺は市役所を始めとする行政施設や文化・スポーツ施設警察署、消防署等が集積している。また武蔵境駅周辺は武蔵野市の原風景が残る学術ゾーンとなっており、今回視察した武蔵野プレイスもこの駅前にある。

この武蔵野市には自治会組織がないということである。

２．武蔵野プレイス開設までの経緯

同館の建設用地は農林省の食料倉庫跡地を払い下げられたもので、平成９年に市議会に跡地利用の特別委員会が設置された。平成１９年に「武蔵野プレイス（仮称）専門家会議」を設置、同１９年に「武蔵野プレイス（仮称）管理運営基本計画」を策定、同２０年に名称を公募、「武蔵野市立ひと・まち・情報　創造館　武蔵野プレイス」に決定した。同２１年建設着工、同２３年１月竣工、平成２３年７月９日オープンした。

この時隣接地に２０００㎡の都市「境南ふれあい広場公園」も開設した。

敷地面積は約２２００㎡で地上４階、地下３階の多目的施設である。

３．武蔵野プレイスの機能

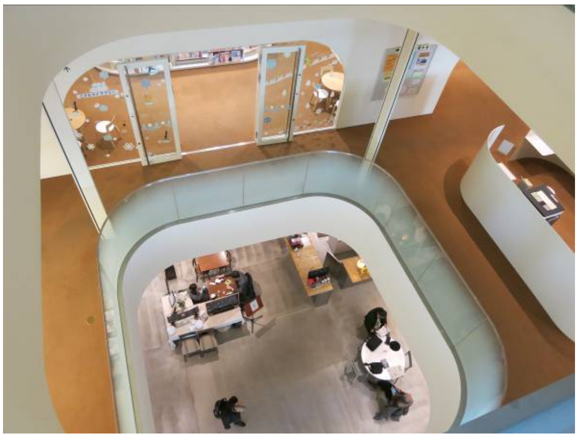
武蔵野プレイスは市民が活動する「プレイス（場）」を提供するもので、「図書館」「生涯学習支援」「市民活動支援」「青少年活動支援」の４つの機能からなり、人々が集うことにより、生活、文化、芸術、自然、歴史、まちづくり、ボランティア活動、市民活動、生涯活動、福祉、教育などの横断的な活動や活性化を促すとしている。

４つの機能うち図書館スペースが大きいが、外部に図書館という表示はなく、あくまで多目的施設を目指している。

１階には予約資料コーナー、新着・返却資料棚、ギャラリー、カフェなどがあり、隣接する公園と同じレベルにして一体化している。カフェでは食事もできる。

２階は児童図書を配置し、こどもライブラリーやお話の部屋などを配置している。

３階はＮＰＯ等の市民活動団体が打ち合わせや、情報収集、相談、印刷などに利用できるフロアーを配置し、大きさが異なる５つ（１０～４０人程度）の会議室などがある。



１階から４階まで開放的な吹き抜け

４階は生涯学習や市民・文化活動のための講座・講演・ワークショップ等ができる「フォーラム」（最大２００人収容可能）や４０席の個人の書斎的有料スペースがある

地下１階は図書フロアーを中心として図書７５，０００冊、雑誌２００誌が収納されている。

地下２階は青少年が気軽に利用できる５種類のスタジオが設けられており、ダンス、演劇、コーラス、楽器演奏などの練習ができる。なお地下３階は駐車場。

全館壁を少なくし、また個室もガラス張りにして、他の人たちの活動が見られるようになっている。

少人数でミーティングができる 3F ワークラウンジ

４．所　見

前日に視察した荒川区も、この日視察した武蔵野市も面積が１０㎢程で、その中に松阪市と同じくらいの人が住んでいて、人口密度が高い。そのため道路や水道、下水などのライフライン、コミュニティバスなどの行政コストや安くあげることができるであろう。その分このような施設にお金をかけることができるのだろうか。

１月に文教経済委員会で視察した府中市の中央図書館は、図書館としての機能を最大限に発揮できる設備が整っており、館内での飲食は全くできないかたちになっていた。今回視察した武蔵野プレイスはまさに多目的な施設である。図書館の機能がメインと思われるが、外部にも図書館という表示はなく、図書館は１つのブースとなっている。また館内のいたる所で飲食ができ、１階フロアーは隣接する公園と一体化しており、視察時は丁度昼時であったのカフェは家族連れなどで賑わっていた。

この施設は地上４階、地下３階となっている。地上４階はともかく、地下３階の建物は極めて珍しく、建設費も多くかかるのではないかという質問も出たが、これは市域に余裕地は少なく、限られた土地を有効利用するためのものであるという回答であった。府中市の中央図書館は市外の人には貸出されないが、この図書館は市外の人にも貸出ができる形態をとっている。

松阪市が図書館改革をするとするなら図書館機能を究極に求めていく府中型の道を選ぶのか、それともカフェなどを取り入れた多機能の武蔵野型を選ぶのか。

日野市の行政視察

視 察 日　　平成２６年２月７日（金）

視察事項　　（仮称）発達支援センターついて

応　　対　　日野市 健康福祉部　発達支援室　室長　　　志村　理恵　氏

　　　　　　日野市 議会事務局　次長　　　　　　　　　立川　　智　氏

健康福祉部　発達支援室

〠191-0011　東京都日野市本町　1-6-2

TEL 042-589-8877

１．日野市の現況

日野市は東京都の中央部に位置する。大化の改新（645 年）後、武蔵国ののろし台が置かれたことから「飛火野」と呼ばれ、その後和銅年間には「火野」となり、のちに現在の「日野」になったと言われている。

前身の日野町は昭和初期頃までは農業中心であったが、昭和１０年頃から大企業の工場が進出し、人口は急速に増えていった。昭和３８年１１月に東京都１２番目の市として日野市が誕生した。

交通は、市内にはＪＲ、京王線、多摩都市モノレールの１２の駅があり、都心まで１時間で出られる。市域面積は２７．５３㎢と狭いが、それでも都内２６市の中では

６番目の広さである。人口は１７万９０００人。

学園都市で市内には中央大学、明星大学、首都大学などのキャンバスがある。また新選組の土方歳蔵や井上源三郎の生まれ育ったところから、「新選組のふるさと」として、５月には新選組まつりも行われている。

２．日野市発達・教育支援センター建設までの経過

４月オープン予定の建設中の施設

障がい者通所施設「希望の家」が老朽化し、障害児童の増加に対応仕切れなくなってきたので、平成１７年３月同施設の発展的再興を目指す「障害者保健福祉ひの５か年プラン」が策定された。

平成２０年１１月「(仮称) 日野発達支援センター基本構想」策定、平成２２年４月（仮称）発達支援センター整備に向けて、施設整備、仕組みづくりのための準備担当職員２名が健康福祉部福祉政策課に配置された。平成２２年１０月「切れ目のない支援検討委員会」が設置され、平成２５年３月には同委員会から①かしの木シートの導入、②発達支援システムの導入、③発達支援関係機関連絡協議会の発足を提言した。なお「かしの木シート」は病院のカルテのようなもので、その子どもに対してどのような支援をしたか書き込むようになっている。

日野発達・教育センターは現在建設中で、２６年４月にオープンする。

３．施設の運営理念と施策

この施設は０歳から１８歳までの期間の福祉分野と教育分野が一帯となって支援を行うもので、「気づく」「育てる」「見守る」「つなぐ」を基本に、支援を必要とする子ども、保護者、関係機関等からの総合的な相談･支援を行う。

これらの理念を達成するために次に掲げる７つの施策に取り組む。

①発達や教育に関わる相談・支援の一本化

発達関係や教育関係の相談・支援を一本化して、子どもの発達・教育等に関わる相談・支援を行う。

②切れ目のない一貫した支援の実施

乳幼児期から小・中学校まで切れ目のない支援を行い、進学・就労の時には本人や

保護者の負担軽減を図る。

③早期からの適切な支援の実施

子どもや保護者にとって、誰でも行ける敷居の低い施設を目指し、保育園、幼稚園、学校など巡回相談を行い、早めの気づき、早期からの支援を行う。

④発達等に関わる専門職等による適切な支援の実施

発達等に関わる専門家（臨床心理学・臨床発達心理士・言語聴覚士・作業療法士・理学療法士等）や特別支援コーディネーターなどいろいろな職種の支援が受けられる。

⑤家族等へのサポート

子どもだけでなく保護者への支援として、一時預かり事業の実施や保護者交流の場の提供など、家族へのサポートを実施する。

⑥進学や就労など自立を見据えた支援を実施

将来の自立を目指し、就労への支援を行う。

⑦三世代交流等の地域交流の場の創出

地域の市民が使える部屋もあり、障がいの有無にかかわらず、子どもや、保護者、高齢者がふれあう場として活用する。

４．所　感

このような施設は、施設ができたから完成でなく、どちらかというとソフト事業が中心となるもので、施設は１つの手段となる。この事業の取り組みに掲げられた理念が花開くか、また施策が計画通りに遂行できるか注目される。

日野市の場合、松阪市と違って土地に余裕がなく、かなり狭いところに建設されている。近隣の住宅から施設を敬遠するような動きはないのかという質問も出たが、周辺には同じような福祉関係の施設が多くあるところから、特にそのようなことはないという回答であった。また作業所のようなものは作らないのかという質問もされたが、スペースがないのでできないということであった。

建物は鉄筋コンクリート造り２階建てで、総工費は５億３０００万円、そのうちの約半分は国と都からの補助でまかなわれる。

職員は正職員が１６名、理学療法士など臨時職員が２８名で運営される。

印刷博物館の行政視察

視 察 日　　平成２６年２月８日（土）
視察事項　　印刷博物館について（ＶＲシアター）
応　　対　株式会社トータルメディア開発研究所　部長　　　　佐藤正文　氏
　　　　　凸版印刷株式会社 中部事業部 営業本部第四部　　　安好寿也　氏
　　　　　凸版印刷株式会社 中部事業部 営業本部第四部
　　　　　　ビジネスイノベーション部ビジネス開発２チーム　北村拓也　氏

印刷博物館
〠　112-8531 東京都文京区水道 1-3-3
　TEL 03-5840-4895（文化事業推進本部）

１．印刷博物館

この印刷博物館は凸版印刷株式会社が２０００年に百周年記念事業の一環として設立したもので、印刷の過去・現在・未来をテーマに印刷文化に関わる資料の収集や、

研究、また印刷を実体験できる施設である。

展示してあるものは古代メソポタミアや古代ローマ、エジプト、中国などの岩や骨に書かれた文字や絵画（レプリカ）から、版木などの初期の印刷、活字による印刷、図版による印刷、動力による印刷、そして現在のデジタル時代の印刷まで１３００年の印刷の歴史で、貴重なものもある。

館内には印刷の歴史の経過が展示されている

２．ＶＲシアター

ＶＲ（バーチャルリアリティー）は高精細デジタル化技術やカラーマネジメント技術などを屈指して、自由な視点移動を可能にする表現方法で、実写でなくＣＧ（コンピューターグラフィックス）によってつくられた映像。

トッパンＶＲではマチュピチュ、ナスカの地上絵、アンコール遺跡、奈良の大仏などの世界遺産など３６作制作された。

同博物館のＶＲシアターは、人間の視点は１２０°であるので湾曲の画面を用い、３台のプロテクターでつなぎ目が分からないように放映される。

今回「甦る江戸城」と「ローマのポンペイ遺跡」の映像を見せてもらったが、臨場感あふれる映像が見られ、視聴者が自由に操作でき、前から、横から、後ろから、上からも見られ、また建造物の中にも入っていける。

３．所　感

松阪市が観光用にＶＲを用いるとすると、常設のシアターを設置することになるが、臨場感あふれる映像を見せることが出来る。この映像はタブレットでも見られることから、観光客がタブレットの映像の案内を受けながら市内を散策することもできる。

ただ１本の映像の制作費が３０００万円～４０００万円と言われ、また建物は別として設備にも数千万円もかかると思われ、結構な高額である。

（報告書作成　　　川口　保）